

【特集】

新版教科書のご案内

光村図書の新しい『美術』は、学びの姿が見える教科書。

何度も授業を取材し、先生方と議論を重ね、編集作業を進めていきました。

本特集では、編集に携わった先生方に、新版教科書の魅力をご紹介します。

撮影 川原崎宣喜(P.4,6～7,11～15)、鈴木俊介(P.5,8～11)



鼎談

授業が見える教科書

やまざきまさあき
山崎正明

ほくしょう
北翔大学教授・
元北海道千歳市立
北斗中学校教諭

たなかしんじろう
田中真二郎

だいせんにしせんほく
秋田県大仙市立西仙北中学校教諭

さらしなゆき
更科結希

くしろ
北海道教育大学附属釧路中学校教諭

令和3年度版『美術』教科書の編集に携わった3名の先生方に、
制作当時の様子や新版の魅力について、語り合っていました。

1 授業の流れが見える 紙面構成

——新版は、「授業が見える教科書」ということを意識し、題材内容や紙面構成について、何度も編集委員の先生方と議論を重ねました。

山崎 新任の先生が増えているという実態をふまえて、編集会議では「教科書を開いたら授業がイメージできるようにしたい」と話しましたよね。そこから、授業の流れが見える紙面構成が生まれました(P.6～7参照)。

田中 新しい教科書を開くと、一つの題材の中で「表現」と「鑑賞」が青色とオレンジ色のアイコンでそれぞれ示されていて、パッと目に入ってきます。これがすごくいいですね。指導要領では「表現」と「鑑賞」を一体的に学習することが求められていますが、それが自然と行える紙面になっていると思います。

——編集部では、新版を編集する際、実際の授業を取材して、題材の内容を詰めていきました。P.6～7で紹介している「心ひかれるこの風景」

(『美術1』P.22～25)では、更科先生の授業を取材させていただきました。

更科 授業をするにあたって、題材名の「心ひかれる」というところがすごく大事だと思ったので、生徒たちには、「学校の中で自分のとおきの場所、『宝場所』を見つけよう」と投げかけました。

——取材中、生徒たちが思い思いのお気に入りの場所を見つけていたことが、とても印象的でした。

山崎 教科書の「表現 発想構想」のアイコンのところでは、「見慣れた

基本的な紙面構成—表現中心の題材の場合—

目標

生徒に伝わりやすい言葉で、その題材で身につける力を示しました。
「表現」「鑑賞」の領域ごとに簡潔にまとめました。

鑑賞

題材の初めに、
表現につながる鑑賞作品を掲載しました。
また、対話が生まれるように
鑑賞が深まる問いも示しています。

表現

発想 構想

作品の発想を広げ、構想を練るための
具体的な手立てを示しました。

表現

みんなの 工夫

授業の取材を重ね、
中学生の制作過程を
段階を追って詳しく示しました。

鑑賞

題材の最後にも鑑賞を位置づけました。
表現活動の後に、作品や作者の言葉を
鑑賞することでより学びが深まります。



『美術1』P.22～25「心ひかれるこの風景」



風景を新しい視点で捉え直してみよう」と投げかけて、光を意識する、視点を定める……などの手立てを示していますよね。これもすごいいい。——見慣れた風景を新しい視点で捉えるためにどのような手立てがあるか、授業者である更科先生にもぜひぶん相談させていただきました。

田中 具体的な手立てが示されているから、教師は指導しやすいし、これを見た生徒は主体的に新たな視点で風景を見てみようと思うんじゃないでしょうか。
山崎 また、「表現 みんなの工夫」のアイコンのところでは、生徒2名の制作過程が詳しく紹介されていま

す。それぞれの生徒がどのように主題を見つけ、試行錯誤しながら作品をつくりあげていったのかがわかっていいですね。
田中 すごくライブ感があります。
更科 一度きりの授業を編集部が取材するというので、真剣勝負でした。風景を見て描く題材なのに、曇

りや雨の日もなくて、ひやひやしましたが（笑）。——この授業では100人近くの生徒を取材しましたが、生徒たちがどのように作品を生み出していくのか、絶対に見逃すまいぞという強い思いをもって、毎回授業に臨みました。
山崎 田中先生は「見つめ、感じ取

り、描く」（『美術1』P.10～13）や、「地域の魅力を伝える」（『美術2・3』P.70～73）に掲載されている授業を担当されましたよね。どんなことを心がけて授業しましたか。
田中 生徒が主題を生み出せるよう、導入を工夫しました。また、教科書に掲載される授業なので、全国の先

生方に「自分もこの授業をやってみたいな」と思っていただけのように、あまり長時間にならないように指導計画を立て、また入手しにくい材料などは使わないよう配慮しました。ありのままの授業を取材してもらっているの、生徒の自然な姿が紙面にもあらわれていると思います。



山崎 正明
やまおか まさひろ

北海道生まれ。北翔大学教授、元千歳市立北斗中学校教諭。北海道教育大学札幌校を卒業後、埼玉県で講師を務め、その後、北海道の公立中学校教諭に。全国造形教育連盟事務局。自身のブログ「美術と自然と人」とで、授業実践や生徒作品などを紹介している。近著に『中学校 美術の授業がもっとよくなる50の技』（明治図書 2019年）がある。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

2 中学生が撮影した「うつくしい！」

——新版の『美術 1』P.2～4の「うつくしい！」では、全国の中学生に美しいと思ったものや風景などを撮ってもらい、その写真作品をずらっと並べました。ここにも生徒の生き生きとした姿があらわれていると思います。

田中 こうやって並べて見ると、「人によって美しいと思うものはそれぞれなんだ」と気づくことができますよね。自分にとって美しいとはなんだろうと考えるきっかけになります。それは、美術を学んでいくうえで、最初におさえるべきことなのではないかと思っています。

更科 さまざまな構図や色、そして季節、すべての要素が詰まっているのでとてもおもしろい。多様な見方があって、それ自体が美しいと思います。授業ではこのページをきっか

けに、自分たちで撮ってみるという活動をしてみたいですね。

山崎 生徒の写真と、谷川俊太郎さんの「うつくしい！」の文章が見事にマッチしていると思います。ここに掲載されている写真の中には、田中先生の学校の生徒作品もあるんですよ。

田中 編集部から全国の中学生の写真作品を集めていると聞き、僕は日直の生徒に一眼レフカメラを持たせて「今日一日で、美しいな、いいなと思ったものを撮ってみよう」と投げかけてみました。生徒にとって日直って本来面倒くさいものなのですが、一眼レフカメラを渡すようになったら、はりきって取り組んでいましたよ。校庭から見える夕焼けを撮る子もいるし、部活で使うラケットを撮る子もいる。普段見慣れた風景でもファインダー越しだと、新鮮に見えるので、生徒たちも楽しんでいました。

3 パワーアップした鑑賞題材

——新版では、鑑賞題材もさらにパワーアップさせました。特に先生方がおすすめのものがありますか。

山崎 現行版の教科書にも「ゲルニカ」がありますが、新版(『美術 2・3』P.48～55)の取り上げ方はすごくいいと思っています。題材の構成が、①「『ゲルニカ』を見る少年」という写真作品を鑑賞し「ゲルニカ」の作品の大きさを感じ取る→②4ページ大で掲載された「ゲルニカ」をじっくり鑑賞する→③「ゲルニカ」の時代背景や、ピカソという作家について理解を深める……という流れになっている、授業しやすくなったんです。

更科 そして新版では、教科書に記載されているQRコードから、「ゲルニカ」の音声ガイドを聞くことができるんですよ。

山崎 この音声ガイドは、鑑賞の授

業の導入に使うことを想定して編集されています。生徒たちの対話が生まれるように、音声の内容がすごく吟味されているんです。1分半程度の短い音声なので、授業でぜひ流してみていただきたいですね。

——ちょっと聞いてみましょうか(音声ガイドを流す)。

田中 うーん、いいですね。鑑賞の授業に苦手意識のある先生や、新任の先生にぜひ使っていただきたい。

更科 この音声ガイドを聞いた生徒は、さまざまに作品の見方を広げていくでしょうね。

山崎 新版では、「ふうじんらいじん ざびょうぶ風神雷神図屏風」や「かながわおきなみうら神奈川沖波裏」などの大きく掲載している作品について、音声ガイドを用意しています。ぜひ授業で活用していただきたいです。

田中 早く新版を使って授業をしたいですね。教科書を見ているだけで授業のイメージが湧いてきます。

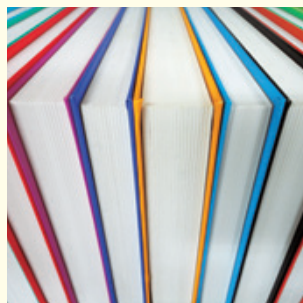
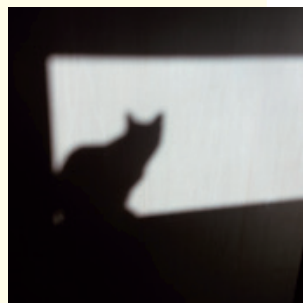
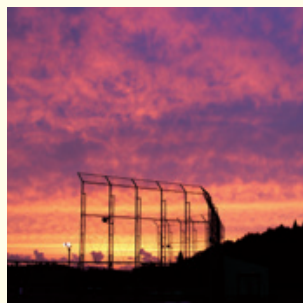
山崎 『美術 2・3』P.2～4の「阿修羅



田中 真一朗
たなか しんじろう

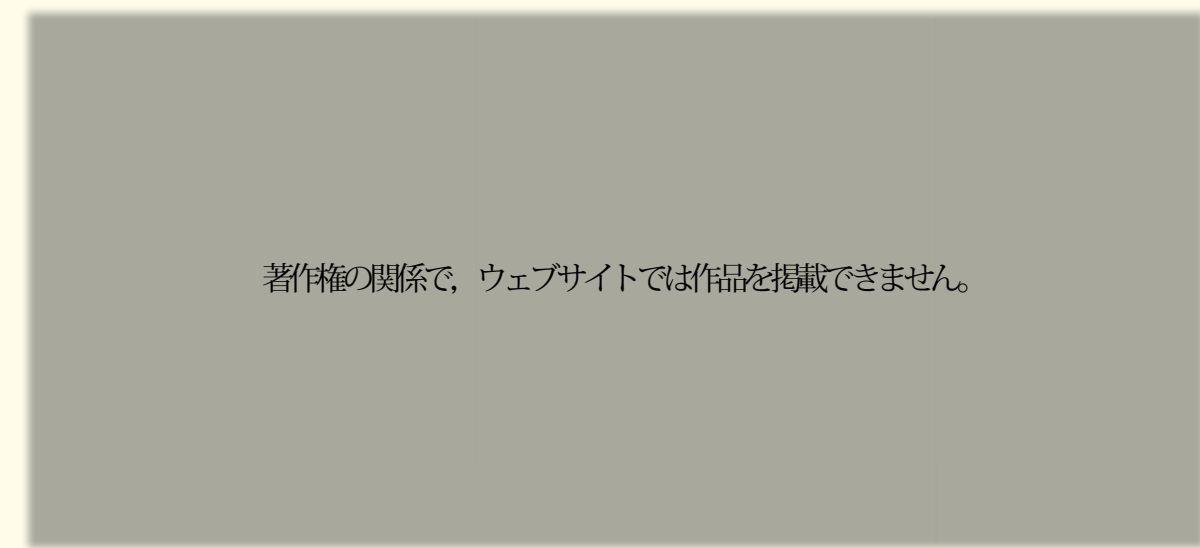
秋田県生まれ。秋田県大仙市立西仙北中学校教諭。宮城教育大学大学院修了後、宮城県私立高校非常勤講師、秋田県内の公立中学校を経て、2013年4月より現職。教育課程研究指定校(国立教育政策研究所、平成26年～28年度指定)。2012年、博報賞受賞。近著に『中学校美術サポートBOOKS 造形的な見方・考え方を働かせる 中学校美術題材&授業プラン36』(明治図書 2019年)がある。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

1年巻頭では、生徒たちが撮影した「うつくしい！」を紹介 /



『美術1』P.2～4「うつくしい！」
全国の中学生に「うつくしい」と思ったものや風景などを撮ってもらい、並べて掲載。日々の生活の中で美しさを感じとってほしいという願いを込めた。

QRコードから音声ガイドが聞ける /



音声ガイド
「ゲルニカ」
音声ガイドの原稿



ここには何が描かれているでしょうか。
右端を見てください。
両手を高く挙げている人がいます。女性でしょうか。大きく口を開けています。
左へ見ていくと、描かれている人のほとんどが、口を開けていることに気づきます。
開いた口から聞こえてくる声を想像してみてください。……(1分26秒の音声収録されています)



更科結希

さらしなゆき

北海道生まれ。北海道教育大学附属釧路中学校教諭。北海道教育大学卒業後、北海道釧路町の公立中学校教諭を経て、2012年4月より現職。北海道教育大学大学院修了。現在、研究主題「創造活動の価値を見出すことができる児童・生徒の育成」の実現に向けて、日々、授業研究を行っている。光村図書中学校『美術』教科書の編集協力者。

像」の見せ方もいいですよ。現行版にも掲載されている作品ですが、新版ではなんと阿修羅の顔が原寸大。

更科 原寸大だから阿修羅の顔にひびが入っていることまでわかる。

田中 実際に興福寺へ行っても、こんなに近寄って見ることはできないんです。でも教科書なら阿修羅の表情に近づいてしっかり鑑賞することができます。きっと、この表情を見た生徒たちから、さまざまな意見や感想が出るでしょうね。

山崎 鑑賞の授業が盛り上がりそうですね。『美術2・3』の巻頭の折り込みを開くと、阿修羅の顔がドーンと現れるわけだから、生徒たちはきっと驚くことでしょう。

書き込んで鑑賞する

田中 「阿修羅像」など現行版に掲載されている鑑賞題材もパワーアップしましたが、新版から新たに掲載された鑑賞題材もすごくいいんです。

例えば、「レオナルドとその時代」(『美術2・3』P.10～15)。「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーが綴じ込まれていて、書き込んで鑑賞できるようになっているんです(詳細は P.14 参照)。

山崎 これは画期的ですね。線を引いて一点透視図法を確認させたら生徒たちが盛り上がりそう。

更科 編集部からトレーシングペーパーを綴じ込むというアイデアを聞いたとき、これはおもしろいことになりそうだなと思いました。トレーシングペーパー1枚で、授業が広がりそうだし、生徒たちは「これはどう使うの?」とワクワクすると思います。

田中 この「レオナルドとその時代」という題材は、美術評論家の布施英利さんが原稿を書いています。布施さんは、光村図書の国語教科書2年の教材文「君は『最後の晩餐』を知っているか」の著者。光村図書の国語教科書を使っている学校では、ぜひ国語科と連携して授業をしてみたいです。

山崎 新版には、この題材以外にも他教科とのつながりを意識した箇所

がたくさんありますので、ぜひ授業で活用していただきたいですね(詳細は P.15 参照)。

比べて鑑賞する

更科 それから、「北斎からゴッホへ」(『美術2・3』P.24～31)もいいなあと思います。北斎の「神奈川沖浪裏」と、ゴッホの「星月夜」が表裏で大きく印刷されているので、北斎とゴッホの関係性が捉えやすい(詳細は P.12～13 参照)。

山崎 そこからジャポニズム(『美術2・3』P.30)や印象派(『美術2・3』P.31)の学習につなげられるような構成になっているのもいいですね。

田中 北斎とゴッホの作品を比べることで、鑑賞がより深まります。「比べて鑑賞する」題材が随所に位置づけられているのは、新版の大きな魅力の一つです。

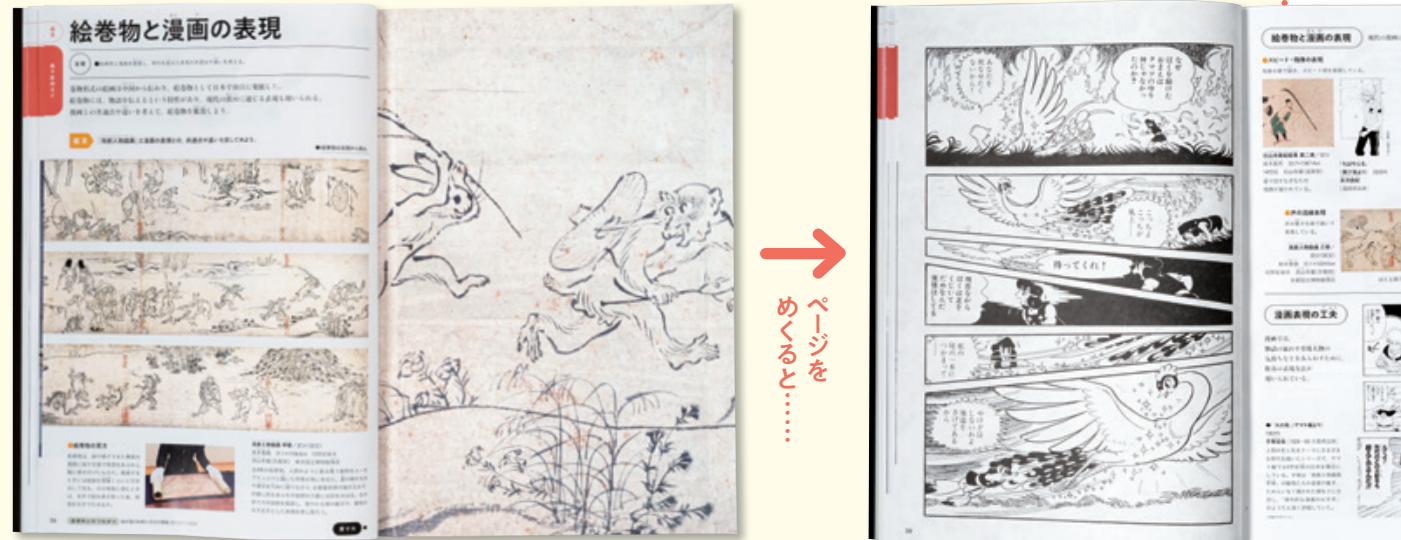
本物に近い風合いで鑑賞

更科 「絵巻物と漫画の表現」(『美術2・3』P.36～39)もそうですね。「鳥獣人物戯画」と漫画「火の鳥」が表裏で印刷されていて、「鳥獣人物



レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の上にトレーシングペーパーを綴じ込み、書き込めるようにした。

「鳥獣人物戯画」は原寸大で風合いのある用紙に印刷 /



『美術2・3』P.36～39「絵巻物と漫画の表現」
「鳥獣人物戯画」と漫画「火の鳥」を表裏で印刷。越前和紙を再現した高級用紙を使っている。

戯画」と現代の漫画表現を比べさせることができます。それと、この図版は風合いのある用紙に印刷されていますよね。私、この紙の感じがすごく好きなんです。

田中 和紙のような味のある用紙ですよ。これはいい。

山崎 しかも「鳥獣人物戯画」は原寸大で掲載されているから、軽やかな筆づかいなどをじっくり鑑賞させることができます。

田中 僕はこれまでも光村図書の鑑賞題材が好きだったんですけど、新版ではさらにパワーアップしていて、早く授業で使ってみたいです。

4 教科書を手にする先生方へ

——最後に、教科書を手にされる先生方にメッセージをお願いします。

山崎 新版には、中学生のリアルな姿があらわれています。教科書を見た生徒が「自分ならこうしたいな」とか、仲間と学びながら「どうあらわそうかな」とか、そんなことを考



えられる教科書になっています。ぜひ、授業で活用してほしいですね。

更科 新版には、中学校3年間で、生徒たちに会わせたいものがたくさん詰まっています。読んでいてワクワクするので、生徒が主体的にこの教科書を読んで学んでいくこともあるのではないのでしょうか。教師としては、教科書の構成が授業の流れとリンクしているので、どんどん活用していきたいな、活用してもらい

たいな、と思いますね。

田中 新版の表現中心の題材では、最初の導入として、鑑賞活動が位置づけられています。ここは、先生方も生徒と一緒に授業を楽しんでほしい。生徒と対話をして、彼らがどんなことを考えているかということや、一緒に考えられる教科書になっています。とにかく先生も生徒と一緒に楽しんでみる、一緒に考えてみる、そんな使い方をしてほしいと思います。

(『美術2・3』P.24～31「北斎からゴッホへ」)



『美術2・3』P.27～29

『美術2・3』P.30～31

②書き込んで、鑑賞を深める（『美術2・3』P.10～15「レオナルドとその時代」）



『美術2・3』P.10～

トレーシングペーパーが綴じ込み、
書き込みしながら鑑賞できるようにしました。



線を引いて消失点を探し、一点透視図法を学ぶ。



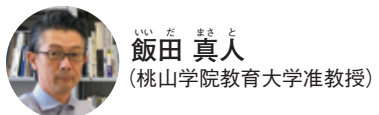
描かれている人物の手や
顔の表情を読み取り、せりふを書き込む。

1枚のトレーシングペーパーで

最初に、編集部から『最後の晩餐』の図版に書き込んで鑑賞するという企画を考えている」と聞いたとき、すごくいいアイデアだと思いました。ただ、図版に直接書き込ませることは少し抵抗を感じ、「トレーシングペーパーを綴じ込んでそこに書き込ませては」と提案させていただきました。その後、編集部ではトレーシングペーパーについて、素材や厚さなどを何度もテストし、生徒が書き込みしやすいものを選んでいったそうです。

このトレーシングペーパーはさまざまな使い方ができます。線を引け

ば遠近法が確認できますし、描かれている人物の手や顔の表情を読み取って言葉を書き込んでもいい。背景を描き加えたりすると新たな物語が生まれてくるかもしれません。ぜひ、この1枚のトレーシングペーパーを使って、作品の見方を広げ、深めていただけたらと思います。



飯田 真と
(桃山学院教育大学准教授)
高等学校教諭を経て、2013年より京都府総合教育センター指導主事。16年よりプール学院大学准教授。18年より現職。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。

美術は文化活動の交差点

今回、編集のお手伝いをさせていただいたことで、あらためて感じた驚きは、自分が中学生だった頃に比べると、美術の教科書が格段の進化を遂げているということ。特に工夫されているのは、他教科との密接なつながりを生徒が自然に感得できるようにした点。例えば、私も大好きなフェルメールの絵が、いかにすばらしいかを語る言葉を探させることはおのずと国語科へ誘う。尾形光琳の「燕子花図 屏風」が、伊勢物語にもとづいていることを語ることは、美術作品と古典文学の関連に気づかせる。ピカソのゲルニカの背景には、

スペインの悲惨な歴史があり、縄文時代の火焰土器には、当時の人々の自然観が表現されていることにも触れる。
私が担当した箇所であれば、エッシャーの有名な敷き詰め模様の作品を取り上げ、それは作家が、鉱物の結晶構造や、生物のウロコ模様が持つ規則性や秩序に興味をもったことに端を発していることを説明し、数学的な平面分割の考え方とリンクしていることを示した。また、自然の中に見られる形やパターンが、自然淘汰をくり抜けた合理的なものであること、それをもとにデザインが

③他教科とのつながりを意識する

題材の随所に、他教科とのつながりを示すコラムを設け、美術での学びが他教科とどうつながるのか、実感をもって理解できるようにしました。

「生活をいろいろ文様」という文様をデザインする題材では、1年数学科で学習する「平面図形」と関連させて、エッシャーの敷き詰め模様を紹介。原稿は、エッシャーの大ファンという福岡伸一先生にお願いしました。

「他教科とのつながり」コラム一覧

- ◆国語科とのつながり
「古典文学と屏風絵」(『美術1』P.37)
「漢字の成り立ち」(『美術1』P.45)
「美術鑑賞を広げる言葉」(『美術1』P.80)
「コピーを考える」(『美術2・3』P.59)
- ◆社会科とのつながり
「火焰型土器 装飾に込めた願い」(『美術1』P.53)
- ◆数学科とのつながり
「エッシャーの敷き詰め模様」(『美術1』P.43)
- ◆理科とのつながり
「自然が教えてくれるもの」(『美術1』P.74)
- ◆家庭科とのつながり
「生活を豊かにする食の文化」(『美術1』P.55)



福岡 伸一
(生物学者)
生物学者。青山学院大学教授。米国ロックフェラー大学客員教授。米国ハーバード大学医学部研究員。京都大学助教授を経て現職。『生物と無生物のあいだ』『フェルメール 光の王国』など著書多数。光村図書中学校『美術』教科書の著作者。



『美術1』P.43